

# 未完 1st

2024 年度宝仙学園共学部高校 1 年学年通信

No. 1 8

2024/12/6

～ 「深み」 ～

期末試験も終わり、2024 年もいよいよカウントダウンという時期になってきました。今日で期末試験が終わりましたが、中学時代から数えてもう十何回目の定期試験ともなると、さすがに「準備が間に合わなかった…」なんてことはなくなってくるか？「いやいや、いまだに同じ失敗を毎回繰り返しているんです…」という人も少なくないかもしれませんね。失敗を繰り返すのは愚かなことだと言われますが、それでも同じような失敗を繰り返してしまうのが人間というもの…。でも、どこかでその失敗のループを断ち切らないと、いつまでも進歩がなく、自分がかかりしつづけることになってしまい、精神衛生的にもよくないですよ。今回も勉強が充分にできない状態で試験に臨んでしまったという人は、まさに今日からがスタートです。期末試験に向けて「一夜漬け」などの短期間でやみくもに詰め込んだものは、いとも簡単にみんなの頭から抜け落ちていきます。そうならないためにも、今日から 3 学期の始業式までちょうど約 1 ヶ月あるこの期間を、大切に過ごしてほしいと思います。まずは、せっかく期末試験モードで勉強していたこの流れに乗って、試験勉強ほどの時間ではなくてもいいので、それを全く「0」にしてしまうのではなく、少しずつ勉強する習慣を自分の中に確立していきましょう。11 月上旬の LHR で行った担任座談会で、複数の先生がおっしゃっていましたが、「自分が集中できる場所、環境を見つける」というのはものすごく大切です。いつもリラックスしている家で、自分の気持ちを勉強モードに切り替えるというのは、なかなかムズカシイもの…。だったら家を出て図書館なり学校の自習室なりに出かけて、場所でモードを切り替えた方が何倍も精神的にはラクです。まずは、その環境を探すところからスタートしてみてもいい？すでにそういう環境を持っているという人も、自分が集中できる場所を複数持っていると、気分によって使い分けたりできるのでおススメです。また、自分 1 人で勉強するのはムズカシイという人は、友達と誘い合ってみるといいと思います。1 人ではできないことも、仲間となら乗り越えられるものですよ？

さて、2 学期の後半の現代文の授業では、村上春樹の『沈黙』を扱いました。授業に取り組むみんなの姿勢を見たり最後の授業での意見を聞いたりしてみると、多くの人たちがこの作品と真摯に向き合ってくれたことが伝わってきて、とてもうれしく思いました。授業でもやりましたが、『沈黙』のキーワードのひとつが「深み」でした。他者との競争や勝ち負けではなく、自分自身と徹底的に向き合い、甘えや弱さを克服しようと何度も自己との対話を重ねる中で、自分自身の内面が次第に掘り下げられていく…。そしてその過程で自分なりの価値観が形作られていき、それを誰かに押しつづべられないように大切に守りつづけていく…。そうした中で、自分自身の中に「深み」というものが少しずつ形成されていくということなのだと思います。さらに言うと、これは授業の中の余談として少しお話ししましたが、自分が今までに味わったことのないくらいの辛さや悲しさ、苦しみを経験することで、その人の人間性はどんどんと深まっていきます。そして、自分の中の「深み」が深まれば深まるほど、その人はきっと他者の辛さや傷や痛みに関心になり、多くの人に対してやさしくなれるのだと、個人的には強く思います。

『沈黙』の中の「深み」というキーワードを考えていた時に、全く同じ「深み」という言葉を語っていた人を思い出しました。「未完」にも何度か登場してもらっている、元メジャーリーガーのイチロー選手です。彼は多くの著名人と対談をしています、その中で元侍ジャパン監督の稲葉篤紀との対談において、奇しくも「深み」という言葉を使っています。以下に少し引用しますね。

イ「今の時代は情報が多すぎて、どれをピックアップしていいのかわからないっていう問題はありますよね」

稲「今みんなそういう時代になってきていて、知識がありすぎるというか…」

イ「まあ、頭でっかちになる傾向はあるでしょうね。今の時代はたしかに」

稲「でも、最短でいける可能性もあるじゃない？下手したら」

イ「(間髪を入れずに)無理だと思います。無理だと思います、はい。失敗しないで、全くミスなしで間違いなしでそこにたどり着いたとしても……」

そこで、イチローは数秒の間を置いてから、

「深みは出ないですよ」と続けたのです。

さらにイチローは次のように話します。「(一度も失敗しなかったとして)単純に野球選手としての作品がいいものになる可能性が…可能性ですよ？僕はないと思いますけど。その可能性があったとしても、やっぱり遠回りすることってすごい大事ですよ。だから僕、無駄なことって結局無駄じゃないっていう考え方がすごく大好きで、でも今やっていることが無駄だと思ってやっているわけじゃないんですよ。「無駄」に僕は飛びついているわけじゃないんですけど、あとから思うとすごい無駄だったってことは、すごく大事なことだと思うんですよ。だから合理的な考え方って僕はすごい嫌いです。僕は遠回りすることが一番の近道だと信じてやっていますけどね、今でも。」

ここには『沈黙』とはまた別の「深み」が出てきています。合理性が重要視される現代社会では、目標に向かって最短距離で辿り着くことが「よし」とされます。「コストパフォーマンス(費用対効果)」や「タイムパフォーマンス(時間帯効果)」なんていう言葉はその象徴です。たしかに、時間や労力をかけずに最小限の努力で最大限の効果を発揮できれば、こんなに効率がいいことはありません。でも、何か(モノではなく、形にならない知識や能力)を得るために費やした時間と、それを失うまでの時間は原則的には「比例」します。つまり簡単に手にしたものは、いとも簡単に自分から剥がれ落ちていってしまうということです。ちょうど冒頭にも書いた、一夜漬けで詰め込んだ知識がすぐに抜け落ちてしまうのと同じように…。逆に、時間をかけて遠回りをして自分の身についたものは、ちょっとやそっとのことで失われたりはしません。

では、「時間をかけて遠回りをする」とは、具体的にどういうことを言うのでしょうか。それは、「誰かから聞いたことを鵜呑みにするのではなく、自や耳といった自分自身の身体を使った実体験を通じて、失敗したことを次に生かしながら自問自答と試行錯誤を繰り返すこと」だと思います。本やインターネットから情報を得ただけでは、それが本当に自分のものになったとは言えません。そこにはやはり、身体を媒介にした実体験が不可欠です。もちろん、いきなりうまくいくことは少ないでしょう。失敗を繰り返す中でそこから学びつつ、少しずつ改善を重ねながら自分の中に確立したものこそ、簡単には剥落(はくらく)することのない、自分だけのものとなり得るのです。

ここまで3つの「深み」について考えてきましたが、それら全てに通底する要素があることに気がつきましたか？「誰かの言葉を鵜呑みにしない」とか「自分で身をもって経験する」とか「自問自答する」とか「自分と向き合い続ける」というのは、自分を掘り下げ、深めていくには欠かせないことなんですよね。みんなもこれからの高校生活において、部活や行事で、あるいは勉強をする中で、幾度となく自分の弱さや甘えと向き合っていくことになるはずですよ。その時こそ、自分の中に「深み」を作るチャンスです。どうかその機会を逃(のが)さず、逃げずに向き合える人であってほしいと願います。